

令和2年度第2回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和3年3月16日(水) 15:00~16:35

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員8名：笹倉剛、松本孝美、松尾弥生、藤岡成子、市浦央子、志方正典、
大崎あすか、伊藤浩信

教委・図書館3名：民輪教育長、藤川館長、伊藤主幹

欠席者 東出一浩、井芹明美

1 開会 伊藤主幹が開会を伝えた。(15:00)

2 あいさつ

(1) 会長あいさつ

コロナ禍で大変な状況になっている。私の周りでも新型コロナウイルスに感染した人やPCR検査を受けた人がいて、みなさんもコロナ対策に苦労されているのではないかと思います。

私が子ども読書について力を注いで書いた本が、今度電子書籍化されることになった。「ありがたいことだ。」と思っている。市内の学校に1冊ずつではあるが寄贈させていただく。

この協議会での忌憚のない意見が、市民にとってよりよい加西市立図書館になるよう活かされればと思う。

(2) 教育長あいさつ

令和2年7月に大阪中之島に「こども本の森 中之島」が開館した。この図書館は、建築家の安藤忠雄氏が、「こどもたちに多様な本を手にとってもらい、無限の創造力や好奇心を育んでほしい」と、私費を投じて建設、大阪府・大阪市に寄贈された。私は、日ごろから、図書館は知の牙城だと言っているが、安藤氏も、「図書館こそ学びの場、知の牙城だ」そして「楽しい出会いの場」だと思われたからこそ、ご自分が生きた証を、図書館建設に託されたのだと思う。

また、三木清という学者が、「私はいつも未知のものに対して憧れてきた」と言っている。その未知への憧れが詰まった玉手箱が図書館なのだと思う。

これからも委員の皆さまのお助けをいただき、「加西に善き図書館」「楽しい図書館」あり、と評判になるように、私も微力ながら力を尽くしたい。今後ともどうぞよろしくご支援ください。

3 報告・議事事項

伊藤主幹から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

(1) 令和2年度加西市立図書館利用状況と蔵書点検結果について(伊藤主幹説明)

委員：図書館は広報が上手だと思う。貸出日数や貸出冊数等、館内で利用者が知りたいことがタイムリーに掲示されている。また、展示のレイアウトやコーナー作りが上手である。ポップがカラフルで子ども目線に合わせて作ってある。本を読みたい気持ちになる。

利用状況はこのようなご時世なので、数字が落ちるのは仕方がない。それでも利用者の方は図書館を楽しみに来館されている。コロナ禍の中、利用状況はそんなに悪い数字ではないと思う。

委員：インターネット上での図書館と利用者とのつながりはどのようなものがあるのか。

事務局：他の図書館では電子図書を導入しているところもあるが、当図書館ではまだ調査・研究している段階である。図書資料のインターネットでの検索・予約は機能としてある。広報としては、SNSではフェイスブックからツイッターに切り替えようとしていて、この1月からツイッターを開始した。市のホームページが3月から新しくなり、それに合わせて図書館のホームページも新しくなった。

1月には、漫画家の埜納タオ氏を招いて、トークライブを展望読書コーナーで実施した。参加者は定員を10名程度に制限したが、当日のインターネットによるライブ配信は約100名の視聴があった。現在もアーカイブで閲覧可能にしているが、すでに1200回以上の視聴がある。

委員：加西市立図書館にはないが、電子書籍は貸出可能なのか。

事務局：電子書籍のサービスを契約すれば貸出可能になるが、高価である。現在は予算化していない。子ども読書活動推進計画（第三次）でも「研究していきたい。」と記載しており、いずれは導入していかなければならないと考えている。

委員：昔の映画のフィルムはとても高い。図書館がその費用を払って貸し出すことになるのか。

事務局：そうです。また、出版社は紙の本を売りたいので、電子書籍については、権利の関係もあってなかなか増えない。種類も少なく、電子書籍化されるまで時間がかかる。また、紙の本より高価である。しかし、研究しないといけないと思う。

雑誌や漫画は電子書籍がたくさん出ているが、一般書は幅広い分野になるのでそれほど出ていないように思う。図書館としては多分野の本を入れたいと思うのですごい金額になってしまう。

委員：CD、DVD、ビデオ等、日本図書館協会が著作権一括処理してくれているものは、図書館でも視聴したり、借りたりできる。しかし、電子書籍は、日本図書館協会もあまり進んでいない。電子書籍の導入は自治体の負担が大きい。

委員：以前は図書館まつりでリサイクル本を利用者に還元していたが、1日しか実施されてなかった。子ども連れでの参加は難しく、その日に都合が悪いと参加できなかった。現在は、常時図書館にリサイクル本が置いてあるので、いろんな人が手にとりやすく、宝さがしをしている気分になる。コロナ禍ということで工夫されていると感じた。今後このやり方を続けてほしい。

事務局：従来は図書館まつりに多くの人に来館していただきたいと思い、リサイクルフェアとしてたくさん本を一度に還元していた。しかし、コロナ禍ではこのようなイベントは難しいと思う。今後は、少しずつ多くの方に、リサイクル本を還元する機会を設けたい。

委員：一大イベントにすると、その日だけの参加になってしまう。普段から図書館を継続して利用してもらうために、常時リサイクル本の還元があることは、図書館利用へのき

っかけづくりになる。

事務局：リサイクル本だけでなく、従来は図書館まつりにイベントを集中させていたが、今後は少人数のイベントを分散して実施する予定である。図書館では小さなイベントではあるが、月に1回程度何らかのイベントを実施していきたい。

事務局：昨年度に比べて、来館者数は30%減、貸出冊数は15%減、利用者数は21%減になっている。8月は学校の夏休みが短縮されたため学生の来館が少なかった。4月・5月は他の図書館が休館していたため、貸出冊数は昨年度よりも多いくらいである。

10月・11月は空調工事のため、2月は特別整理期間を長く設けたため、来館者・利用者・貸出冊数全て減であった。

委員：リサイクル本が図書館入口に置いてあるが、小さな子どもが、図書館の本を貸出処理せずにそのまま持って帰ってよいと誤解しないかが心配である。今後もこの事業を続けていくのであれば、この場所はリサイクル本の場所であると、明確にするのがよいと思う。

事務局：図書館入口にリサイクル本専用の本棚を作った。今後は、もう少しわかりやすく工夫したい。

委員：最近広報に図書館の活動内容がよく掲載されている。「がんばっているなあ。」と感心している。図書館では、子ども向けのイベントだけでなく、一般成人向けのイベントもやってほしい。

委員：学校にも図書室がある。子ども達が図書室を利用して読書好きになるように子どもを育てたい。そういう時に図書館に相談して、学校図書館の図書整理を手伝ってもらい、ありがたいと思っている。5月に学校が休校になった時、児童宅に担任教師が宿題を届ける際に先生のおすすめ本を1冊一緒に持って行った。その後も週末読書として、金曜日に本を借りて月曜日に学校に持ってくるという取組をしている。その一環として、図書館から出前講座（ブックトーク）をしてもらい、その中で本の借り方、返し方のマナーを教えてもらった。対象の学年ごとに、内容を工夫してやってもらっている。これからも協力して読書好きの子どもを育てたい。

委員：「情報弱者（高齢化世代）にいかに関書館サービスを行うか。」が大きな課題である。60歳以上の方が本の読み聞かせを6年以上やると脳の海馬が0.5%、やらなかった人は4.1%縮小した。読み聞かせは認知症治療に大変役立ったという研究結果がある。高齢者が図書館サービスを大人にも子どもにも情報発信する取組を図書館でやってほしい。

教育長：「人口がどんどん減って、老人ばかりになってしまう。」と否定的にとらえる人たちがいるが、私は「老人ではなく成熟した人だ。」と思っている。公民館で成熟した人に何をどのように生涯教育を学んでもらうか、大きなテーマである。人生100年とすると80歳位まで学んだり働いたりしないといけない。図書館もリカレント教育を担っている。

(2) 自動貸出機等の設置について（藤川館長説明）

- (3) 空調設備改修工事について（藤川館長説明）
- (4) 加西市子ども読書活動推進計画（第三次）について（伊藤主幹説明）
- (5) その他

委員：午前中に図書館に行くと、シニア世代の男性がよく新聞等を読んでいらっしゃる。図書館で楽しく過ごせることがあれば、おもしろいものがあれば、もっと生き生きされるのではないかと。図書館でもシニア向けのイベントがあればいいと思う。

委員：高齢者の中には、図書館が遠くて行きづらいという人もいます。公民館や総合教育センターにも本があるので、以前に図書館と公民館等をオンラインで繋いで、図書システムを共有することを検討した。しかし、多額の費用がかかるため断念した。

事務局：図書館は北条地区にある。図書館周辺に住んでいる人は図書館を利用しやすいが、それ以外の地区に住んでいる人は来づらいようである。公民館を図書館の分館的な役割にする案や移動図書館を導入する案についても、費用がかかるため実行に移せない。40～60代の利用が多い。図書館に対する需要はあると思う。その年代向けのイベントを実施していきたい。図書館に来ているほうが健康的に過ごせるという統計結果がある。知的欲求に訴えかけるような催しを実施したい。

委員：市内は老人ホームが多い。そういうところで何かできないかと私たちのグループも考えている。

委員：シニア世代が図書館で楽しめるモデルを模索してほしい。

委員：滝野図書館は加西市の住民もよく利用されているが、先日、滝野図書館で小さな子ども連れのお母さんと会話したときに、「子どもがおなかをすかせた時に、ちょっとお菓子を食べさせる場所が加西市立図書館にはない。」おっしゃった。

事務局：展望読書コーナーでは飲食可能である。今後、館内の飲食については検討する必要があると感じている。

委員：最近大学の図書館はラーニングコモンズといって、おしゃべりしても飲食してもよい空間と静かに本を読む空間がある。公共図書館もそのような流れになっている。

教育長：図書館が書斎になるつもりで取り組むことが大事である。

委員：中高生が集える場所があるといい。

事務局：楽しい図書館になるように、館内にも飲食できる場所を事務局側でも協議していきたい。

4 連絡事項

加西市立図書館は1970年4月に開館し、2020年で50周年となった。アステリアかさいもオープンから18年が経過し、開館してもう少しで20周年になる。その時には、図書館も協力して、何か大きなイベントを実施したい。

5 閉会 松本副会長が閉会のあいさつをした。

本日は、みなさんからいろいろな意見が出て、実りある会議であった。加西市立図書館が、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年代の人が本を借りることのできる、本を読める場所であることを多くの人に周知できる場所であってほしい。図書館の催しが他市の団体のフェイスブッ

クでほめられていて、感心した。生活の様々なシーンに本が必要になることを周知できたらいいと思う。

(16 : 35 終了)